（別紙８）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成　20年 10月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	０１７０２００８０２		
法人名	有限会社　篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム　からまつ		
所在地	札幌市北区篠路３条７丁目９番１７号 電話：　０１１－７７２－２２６０		
評価機関名	株式会社　社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南３条東２丁目１		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成20年11月2日

【情報提供票より】（　　平成２０年　１０月　１４日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　１４年１月１７日		
ユニット数	１ ユニット	利用定員数計	９　人
職員数	10 人	常勤　6人，　非常勤4　人，　常勤換算 8.25 人	

（２）建物概要

建物構造	木造　造り			
	２階建ての　1、２　階部分			

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	35,000　円		その他の経費（月額）	光熱水費：　13,000 円 暖房費（11～3）：8,000 円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	１ヶ月当たり　40,000　円			

（４）利用者の概要（　１０月　１４日現在　）

利用者人数	９名	男性	１名	女性	８名
要介護１	3	名	要介護２	3	名
要介護３	2	名	要介護４	1	名
要介護５	0	名	要支援２	0	名
年齢	平均　82.6 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団札幌優翔館病院　　荒木病院　　砂山歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「からまつ」は、ＪＲ篠路駅から２，３分と交通の便が良く、商店を改築して作られたホームは、１、２階に居室がある１ユニット型のグループホームで、２階にも広々としたホールがある。運営者は、民生委員をしており、地域のお年寄りが安全に、安心して暮らせる場所の必要性を感じてグループホームを開設している。管理者は、以前のグループホームでの経験を生かし、職員と共に、個々の利用者の思いを汲み取り、毎日楽しく、利用者と笑って暮らせる笑顔の絶えないグループホームを目指して日々努力している。利用者は、積極的に家事を手伝い、職員と共に支え合いながら落ち着いた生活を送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の外部評価での改善項目は無かったが、評価を活かし、介護に対する姿勢の改善に努めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 今回は自己評価表を全職員に配布し、それぞれの職員の関係する項目を記入する事で管理者がまとめあげた。自己評価をする事により、管理者や職員は、現在のグループホームの役割や、地域密着型の必要性を知る良い機会になったと捉えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 運営推進会議は、町内会長、民生委員、隣町の町内会副会長、地域包括職員、住民、利用者と家族等の参加のもと、２ヶ月毎に開催されている。管理者は、会議内容が日々の介護にはまだ充分活かされていないと考えているが、行事予定や結果報告とともに、認知症の周辺症状について説明する事により、地域住民や警察が認知症を理解し対応に役立てるなど運営推進会議が活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 毎月「からまつ通信」を発行し、個々のコメントを担当者が記入して家族に送付している。職員の異動や退職についてもホーム便りで報告している。家族とは、管理者が代わった事を契機に、来訪時に口頭で色々な意見や不満、苦情を言って貰えるような関係作りが出来ている。提起された問題は職員で話し合い、結果を家族に報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 町内会に加入し、神社のお祭りや焼き肉パーティーに参加したり、父の日、母の日に町内会から花を届けて貰うなどの交流がもたれている。職員は、遊歩道の草刈りにも参加している。利用者の身体状況の変化により、外出しての地域参加が少しずつ難しくなって来ているので、今後は、事業所での行事等に地域住民を招いて交流を深める様な計画が立てられ、実行されることを期待したい。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念の中には、「地域や自然と触れ合い関わりをもって」と言う言葉が入れられているが、開設当初の理念であり、グループホームが果たすべき地域密着型サービスの役割を反映した理念の内容には至っていない。	○	新しい管理者のもと、地域密着型サービスとして何が大切かを職員全員で考え、事業所独自の理念を作りあげる事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、食堂に掲げられているが、日々の仕事の中で理念を取り上げての話し合いや、確認することが少なく、理念を意識しての具体的なケアは行われていない。	○	新しい理念を全職員で作りあげる事により、事業所独自の理念を理解し、理念の実践に向けて日々利用者と接して行く事を期待したい。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、神社のお祭りや焼き肉パーティーに参加したり、父の日、母の日に町内会から花を届けて貰うなどの交流を行っている。職員は、遊歩道の草刈りにも参加している。	○	利用者の身体状況の変化により、外出しての地域参加が少しずつ難しくなって来ているので、今後は、事業所での行事等に地域住民を招いて交流を深める様な計画が立てられ、実行されることを期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での改善項目は無かったが、評価を活かし、介護に対する姿勢の改善に努めている。今回の自己評価は、全職員に配布し、それぞれの職員の関係する項目について記入して貰い管理者がまとめあげた。自己評価をする事により、管理者や職員は、現在のグループホームの役割や、地域密着型の必要性を知る良い機会になったと捉えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町内会長、民生委員、隣町の町内会副会長、地域包括職員、住民、利用者と家族等の参加のもと、２ヶ月毎に開催している。行事予定や結果報告とともに、認知症の周辺症状について話す事により、地域住民や警察が認知症を理解し地域での対応に役立てている。次回の運営推進会議では、今回の評価を議題として取り上げる予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催している会議などには参加しているが、現在は、市役所や区役所の担当者との関わりはあまり持たれていない。	○	今後は市役所や区役所に足を運び、担当者や関係部署との関係作りを積極的に行い、事業所の実状や考え、問題点を知って貰い、サービス向上に向けた取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「からまつ通信」を発行し、個々のコメントを担当者が記入し、お小遣い帳のコピーと領収書と一緒に家族に送付している。職員の異動や退職についてもホーム便りで家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、外部の苦情申し立て機関も明示している。家族とは、管理者が代わった事を契機に、来訪時に口頭で色々な意見や不満、苦情を言って貰えるような関係作りが出来ている。提起された問題は職員で話し合い、結果を家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員不足による派遣職員の時期もあり、離職が多い時期もあったが、現在は職員の入れ替わりは少なくなって来ている。馴染みの職員の退職により利用者が不安定になった時は、他の職員が寄り添って会話を多く持ち、ダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は、フロアー会議を２ヶ月に１回行っているが、研修体制は不充分で、内部研修も行われていない状況である。外部研修の情報は職員に提供されているが、積極的に参加する状況には至っていない。	○	今後は、グループホームのあり方など身近な議題から取り上げて内部研修を充実させ、定期的に開催し、職員のレベルアップを目指すと共に、運営者と相談して、外部研修の受講体制の充実が図られる事を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、管理者連絡会を通じて交流を行っているが、職員レベルで交流する機会はまだ充実していない状態である。	○	事業所の近隣には数カ所のグループホームがあり恵まれた環境なので、管理者間で交流の機会を作れるように話し合い、職員も相互訪問などの活動を通して、より一層のサービスの向上を目指す事を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は、家族と本人に事業所を訪問して貰い、お茶を飲んだりしながら馴染みの関係を作るよう努力している。入院中の時は、管理者と計画作成担当者が来院し、本人と面会して話をしている。入居後は、出来るだけ話しかけを多くして利用者の生活歴などを知り、安心して生活出来るように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に手すり拭きや茶碗拭きをしたり、料理の味付け、下ごしらえを手伝って貰ったり、神棚の扱い方や年間行事などを教えて貰い、お互いに支え合う関係を築いている。利用者に積極的に手伝いをして貰えることで、職員は感謝の気持ちを伝えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を把握するために会話を多く持つように努めているが、他の利用者の前では話にくい事もあるので、夜勤帯など個別に話が出来る時間を大切にしている。意思が思うように表現出来ない利用者に対しては、表情や仕草で把握するように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、センター方式のシートを使い生活歴や今までの生活の様子などを本人や家族から情報収集をしている。認定の更新時にはモニタリング用紙を職員に配布し、申し送りノートに添付し1週間ほどかけて介護計画を作成している。 本人の状況に応じて計画書の説明を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度定期的に見直しを行っているが、それ以外にも変化が生じた場合は見直しを行い介護計画の修正をしている。現在は、入退院などの大きな変化はないが日常生活の小さな変化に対しても職員で話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めている。計画書は家族に送付し、確認を得ている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診は、家族対応でお願いしているが家族が就業などのために難しい場合は事業所が通院の介助を行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名の利用者のうち2名は本人、家族の希望で入居前から受診している認知症の専門医への通院を継続している。協力医療機関からは週１回の訪問往診があり、医師、看護師との連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「重度化した場合の対応に係わる指針」の書面を取り交わしている。終末期の対応は、その状態となった時に話し合うようにしており、書面での確認は行っていない。現在、看取りは行っていないが事業所としての対応を検討していきたいと考えている。	○	事業所の方針を明らかにすることで、早い段階から繰り返し話し合いをもつことができるよう、期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレに行く時の言葉かけをする時は「行きましょうか？」という言葉のみを伝え、場所は言わないようにしている。家族からの食べ物などのお土産がある時には、その家族が特定できないよう配慮している。面会簿は複数の氏名が記入できるシート方式となっている	○	面会簿の書式を検討することで個人情報を保護することができるよう、期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっているが体調によって調整している。利用者同士が2階の小上がりで一緒にテレビを観て過ごしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。家事の手を止めて一人ひとりの思いに寄り添っていきたいと考えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今年の8月から献立作成と食材の配達は業者に委託している。行事食や外食、好みの食事を取り入れる時は1週間前に発注を止めて対応している。利用者はもやしのひげ根を取ったり、味付け、片付けなどを職員と一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に3回の入浴を目標とし、曜日は決めず毎日午後に入浴している。入浴の回数が少ない利用者については職員会議で話し合い、どのような言葉かけが適切であるか検討し統一している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日勤帯の職員が4名の時は、午後からぬり絵や唄、ストレッチ体操などをしている。「ボタンを付けたいので針を貸して欲しい」という希望があり、対応していきたいと考えている。	○	役割や楽しみごとの支援として「雑巾縫い」を取り入れていきたいとのことなので、その実現に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は月に３回から４回、少ない時は2ヶ月に1回くらいの頻度である。信心深い利用者が多く、近隣の神社やお寺に散歩に出かけている。冬季の外出は天候に左右されないよう立体駐車場のある大型商業施設などを選んでいる。	○	外出行事を年間計画に位置づけていきたいということなので、その実現に期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の横に事務所があり、外出の気配があると他の利用者が職員に連絡することがあるので鍵をかけることはない。安全面に考慮して、出入り口の引き戸の前に座卓を移動させて不意の外出に備えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の指導の下に日中を想定して避難訓練を行っているが、商店の多い地域性のため近隣の協力を得ることが難しい。管理者は今年の12月に防火管理者の資格を取得する予定である。	○	代表者が近隣に居住しているので、その町内会に働きかけることで地域の人々の協力を得ていきたいとのことなので、その実現に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぼ全ての利用者が全量を摂取している。水分は番茶やジュース、ホットミルクなどを用意し、一日の水分量は夜勤者が集計して記録している。また、咀嚼し易いように食材は柔らかく調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	商店を改築し1階に4つの居室と小上がり、台所、食堂、洗面所、浴室、トイレ、事務室がある。2階は広いホールを中心に5つの居室とトイレ、洗面所、トイレ、スタッフルームがあり、居間の壁には大型の油彩や水彩画が飾られている。様々な種類のソファを置いて一人ひとりが居心地よくすごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床材はフローリングを使用し、バリアフリーとなっている。居室のドアには手作りの表札が掛けられ、壁には本人が日付を書いたり絵を塗って作ったカレンダーを飾っている。家族と連携し、自宅で使っていた箪笥などを持ってくることができるよう支援している。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。